第12回
連携医療機関のご紹介

日頃からお世話になっている地域の医療機関をご紹介致します。

医療法人大志会　つねおかクリニック

住　所：南島原市有家町久保21-1
理事長　　常岡　伯紹　　電　話：0957-82-2248

2009年3月に長崎大学移植・消化器外科を退局し、3年間哲翁病院に勤めた後、2012年6月に南島原市有家町で「医療法人大志会 つねおかクリニック」を開業させて頂きました。早いもので開業してから11年が経過しました。

実は私も1999～2000年の1年間、小浜病院に勤務していました。その頃はまだ国立小浜病院時代で古い病院でした。今では新しく立派な病院に生まれ変わり時の流れを感じます。

大学の移植・消化器外科時代には消化器外科、特に肝胆膵領域の外科を専門にしておりましたが、開業してからは地域の医療ニーズもあり内科的疾患全般、その他の領域のプライマリーケアを中心に診療しています。今回のコロナ禍の際には外来検査室を設けて発熱患者への対応も行いました。

外科医として手術をしていた頃から考えていましたが、現在癌は早期であればかなりの確率で治癒が期待できるため、早期で発見することが予後の改善に重要です。

消化器癌を専門としていた者として、なるべく早い段階で癌を発見し次の医療にスムーズに引き継ぐことが今の私の重要な仕事と考え、エコーや内視鏡などもコツコツ行っています。

とは言え専門分野以外に関しては非力非才であり、また診療所ゆえ十分な検査・治療設備もないため、患者様の紹介や検査などでは小浜病院をはじめ関係医療機関の方々には大変お世話になっております。ご迷惑をおかけすると思いますが、今後ともよろしくお願いいたします。

ジャカランダ　2024年1月VOL.29
発行：公立小浜温泉病院
〒854-0593長崎県雲仙市小浜町マリーナ3番地2　TEL：0957-74-2215（総務課）FAX：0957-74-2526

医療法人社団 苑田会 公立小浜温泉病院
2024年1月発行
Vo1.29

ジャカランダ

新年のあいさつ

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、皆様にとってどのような1年だったでしょうか。

私的には、昨年1月に手を骨折しまして手術を受け、また8月には新型コロナ感染症に罹患しました。関係者の皆様には、大変なご心配とご迷惑をおかけしまして猛省したところです。年を取ると月日が経つのが早く感じられます。

さて、今年は医療界では、「医師の働き方改革」が施行されます。

当院としましても、労基署から「断続的な宿直または日直勤務許可書」をいただきました。

当院の宿日直は常勤医師だけでは対応しきれず、大学病院等非常勤医師の先生方に頼っているのが現状ですが、新年度からは「これ」がないと地域医療は崩壊してしまいます。地域住民の皆様の健康は守れなくなるのではと危惧いたしております。地域医療を守るためには、医師を含めた医療従事者の健康を守り、持続可能な医療を提供することが必要です。

一方、国は、「労働時間を減らし、地域医療は守りなさい。」とも言っています。

これを進めるためには、更に多職種へのタスクシフトを進める必要があります。環境整備、業務管理、時間外労働の上限設定、業務の効率化、診療看護師の育成など枚挙に暇がありませんし、実施するにも大変です。

巷では、インフルエンザも季節に関係なく増えつつあるようですが、新型コロナ感染症も幾分増加傾向に転じた感があります。

島原半島西部地区は県下でも高齢化が顕著に進んでおりまして、80歳以上高齢者の入院率を県下の病院で比較しますと当院が一番高く、大変複雑な心境です。

海岸沿いの新病院は移転して4年目となります。地域の先生方と共存して、地域の医療の灯りを消さないように頑張る所存です。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

院長　井手　孝

目次　Contents

・「新年のあいさつ」　・・・院長　井手　孝
・NEWS「認定書授与式」
・「地域包括ケアシステムの時代におけるリハビリテーションについて」　・・・長崎大学病院　教授　高畠　英昭
・連携医療機関のご紹介　・・・医）大志会つねおかクリニック

ＮＥＷＳ

去る11月27日（月） キャリア開発ラダーⅠ・Ⅲ認定ならびに院内認定制度（吸引）認定書授与式を行いました。キャリア開発ラダー5名・院内認定制度（吸引）9名、計14名の認定修了者に対し、認定書と共に認定ピンバッチが交付されました。

院内認定制度（吸引）認定

訓練で生じる痰排出や食物残渣の吸引は、生命維持や誤嚥の予防のために必要な医療行為です。従来は看護師や患者さまのご家族に依頼して吸引をしていましたが、この度の院内研修を受けたリハビリ職も出来るようになりました。研修では基本的な手技に加え、患者さまの状態に合わせた応用的な手技を丁寧に指導してもらいました。訪問先の急変時の対応やタスクシフティングの促進の観点からも、安全で迅速に効率よく吸引が行えることが求められると思います。今後も研修で学んだ手技をもとに、幅広く対応ができるように自己研鑽に励みます。

訪問リハビリ担当　作業療法士　永田　浩一

上段：左から　岩崎PT　本田PT　田口士長　江川PT　永田OT
下段：左から　福田看護師長　松浦PT　稲田PT　井手院長　下田PT　髙屋PT

上段：左から　下田Ns　福田生吹Ns　福田かんなNs
下段：左から　横山看護師長　井手院長

左から　城代Ns　　永田Ns

認定
ピンバッチ

キャリア開発ラダーⅢ認定

この度、キャリア開発ラダーⅢの認定をいただき、今まで頑張ってきたことを評価され、認めていただけたことを嬉しく感じ、認定書をいただいた時は充実感がありました。そして、自分自身の業務での役割や今後の目標も再認識することが出来ました。透析医療という専門的分野になりますが、患者様に安心安全の透析治療を受けていただくため、質の良い看護の提供と新人や後輩を引っ張っていけるように引き続き、自己研鑽に努めていきます。

透析室　城代　和美

リハビリテーション科

当号と次号はリハビリテーション科の特集です！当号は高畠医師の記事を掲載しております。

長崎大学病院リハビリテーション科教授の高畠英昭先生（リハビリテーション科医）は、公立小浜温泉病院において、小浜温泉地域の地域包括ケアシステム構築のために、まひがある人、高次脳機能障害を有する人、在宅復帰および復職や車の運転再開を目指してリハビリに励んでいる人、摂食嚥下のリハビリを行っている患者の診察、指導にご尽力いただいています。

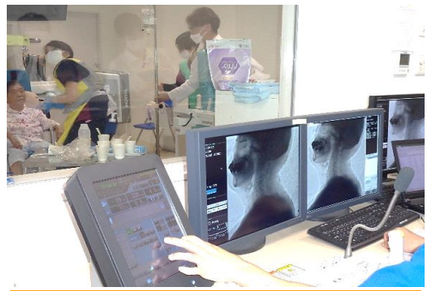
地域包括ケアシステムの時代におけるリハビリテーションについて

長崎大学病院リハビリテーション科　　高畠　英昭

地域包括ケアシステムとは、地域（自宅）に在住する患者や利用者を中心に、包括的なケアと支援を提供するための取り組みや仕組みです。これは、医療、介護、福祉、地域資源、社会参加などを統合的かつ協力的に提供し、高齢者や慢性疾患患者などが地域で最良のケアを受けられるようにすることを目指しています。これまでの医療は、患者が病院や施設に訪れる形で提供されて来ましたが（病院中心）、地域包括ケアシステムでは、地域に在住する患者を中心に病院や施設が医療や福祉を提供するという形で進みます（患者中心）。

地域包括ケアシステムは、患者や利用者が自宅にいることが前提ですので、これまでのような長期入院・長期入所は少なくなり、患者が家に帰られるようにする医療が必要です。リハビリテーションは、過去には整形外科疾患や脳卒中に行われるものと考えられてきました。しかしながら、超高齢化社会においては、呼吸器疾患・心疾患・がんなどほとんどの疾患で幅広くリハビリテーションが行われています。リハビリテーションにより身体機能の維持・向上が図れ、高齢者の自宅復帰を促進できるだけでなく、疾患の二次予防（再入院の予防）、介護の軽減、社会参加の促進など多くの効果が期待できます。

このように、地域包括ケアシステムの時代にリハビリテーションは欠かせないものとなっています。小浜地区は、公立小浜温泉病院に急性期病棟・回復期病棟（整形・脳卒中のリハビリ）・地域包括ケア病棟（整形・脳卒中以外の亜急性期病棟）があります。周囲には福祉施設や運動施設も充実しており、地域包括ケアシステムの時代に寝たきり予防を行うには最適の地域です。このような恵まれた環境のもと、多くの方々により良いリハビリテーションを提供し、地域の方々がいつまでも活き活きと生活できるように、少しでも貢献できればと思います。



嚥下造影検査中の高畠医師

高畠　英昭　（たかはた　ひであき）
長崎大学病院リハビリテーション科 教授
リハビリテーション医学会専門医・指導医、脳神経外科学会専門医、脳卒中学会専門医
1993年　　長崎大学医学部卒業 長崎大学脳神経外科入局
2014年～ 産業医科大学リハビリテーション医学講座講師
2017年～ 長崎大学病院リハビリテーション科

▶次号は酒井医師とリハ科長・リハ士長との対談です。お楽しみに！